

講師・パネリストの紹介

■今井 美希(イマイ ミキ)氏 (講師)

経済産業省 イノベーション・環境局
GXグループ資源循環経済課 課長補佐

2019年 経済産業省入省

入省以来、通商政策局、大臣官房、外務省出向、
GXグループなど、幅広い業務に従事

2024年 5月より現職

■水島 大輝(ミズシマ タイキ)氏 (講師)

環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課

2015年 環境省入省

東日本大震災の復興、気候変動対策、水道の担当
のほか、大阪府高石市役所出向

2024年 7月より現職

昨年成立了新法「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（再資源化事業等高度化法）」の主担当として、詳細な制度検討等の業務に従事。

■滝田 亮一(タキタ リョウイチ)氏 (講師)

TOPPAN株式会社 生活・産業事業本部 SX推進センター
SXパッケージ開発本部

2007年 凸版印刷株式会社入社

新事業推進センター、事業開発センター、ビジネス企画本部等を経て、SXパッケージ開発本部にてリサイクル包材の開発を担当。

2024年 10月より現職。軟包装材料の水平リサイクルに向けた取り組みに従事。

■前川 恵士(マエカワ サトシ)氏 (講師)

公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会

業務執行理事 プラスチック容器事業部長

早稲田大学理工学部・ミシガン州立大学大学院 (School of packaging) 修了
1983年~2018年

サントリーで主に包装資材の設計・調達・品質管理に従事
2018年~2023年

容リ協にてペットボトルリサイクル担当

2023年~

容リ協にてプラスチック容器包装リサイクル担当

■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒコ)氏 (企画委員)

特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム
代表理事

東京大学法学部卒業。

環境監査研究会代表幹事、地球システム・倫理学会常任理事、認定NPO環境経営学会特別顧問（元会長）、NPO日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、（一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、（一社）環境パートナーシップ会議理事、サステナビリティ・コミュニケーションネットワーク共同代表幹事、（一社）レジリエンスジャパン推進協議会理事等。
環境省他各種委員会等を歴任。著書論文多数。

■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長

2004年1月 大日本印刷㈱を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。

世界の包装展観察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。

日本技術士会会員、技術士包装物流会会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森 泰正(モリ ヤスマサ)氏 (企画委員)

株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン
取締役社長

1972年~2009年 三井・デュポン ポリケミカル㈱勤務
1988年~1990年 米国デュポン社 パッケージ事業部門に

出向
2009年~2017年 三井物産㈱ パッケージング・シニアアドバイザー

2015年1月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを有田氏(現有田技術士事務所 所長)より承継

現在に至る

海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す活動を行っている

JP I 本部 人材育成コースのご案内

詳細は当会HP及び各催事のご案内パンフレットにてご確認ください

包装新人研修コース(定員: 40名予定)

開講日: 4月上旬 (2日間)

開催方式: 対面研修

受講対象: 入社0~3年の方

受講料: 会員1名/約4万円

包装基礎コース(定員: 70名予定)

開講日: 5月下旬 (4日間)

開催方式: 対面

受講対象: 入社3年~4年の方

受講料: 会員1名/約7万円

第13回包装近未来シンポジウム
(対面開催)

日本の法改正を軟包装でどう生かし世界で発展していくか

●開催日: 令和8年3月13日(金) 13:00~17:30

●主催: 公益社団法人日本包装技術協会

【包装近未来シンポジウムの参加申し込み方法について】

JPIホームページ (URL: <https://www.jpi.or.jp/>) より参加登録をお願いします。

本シンポジウムは対面開催です。

開催要領

●日 時: 令和8年3月13日(金) 13:00~17:30

●参加費:

1名分参加費	会員	一般
本体	11,000円	21,000円
消費税10%	1,100円	2,100円
税込合計	12,100円	23,100円

●定員: 50名

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会

包装近未来シンポジウム係 担当: 小橋

〒104-0045

東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL: 03(3543)1189 / FAX: 03(3543)8970

e-mail: kobashi@jpi.or.jp

参加申込方法と注意事項

【参加申込方法】

■本催しは対面開催です。

お申し込みは当会ホームページのシンポジウム参加申込ページよりご登録頂きますようお願いします。

当会ホームページURL: <https://www.jpi.or.jp/>

■申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。

■申込者1名のみ本催しに参加できます。

【注意事項】

①開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意下さい。

②申込みされた方が参加できなくなった場合、代理の方の参加は可能です。(法人会員のみ)

参加者を変更される場合は、事前に事務局にご連絡ください。

会場

■公益社団法人日本包装技術協会 会議室

東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階



東京メトロ日比谷線・東銀座駅下車徒歩5分
都営地下鉄浅草線・東銀座駅下車徒歩10分

プログラム

時 間	テ ー マ
13:00—13:50	<p>講演① 『成長志向型の資源自律経済の確立に向けた取組について』</p> <p>近年では、廃棄物問題や気候変動問題に加え、世界的な資源需要と地政学的なリスクの高まりといった資源制約の観点から、資源の効率的・循環的な利用と付加価値の最大化を図る、「サーキュラーエコノミー」への移行が喫緊の課題となっている。これまで主に廃棄物処理や3Rの観点で進めてきた資源循環を、経済活動として進めていく意義が高まっており、本講演では、サーキュラーエコノミーの最新の動向について紹介する。</p> <p>講 演 者</p> <p>経済産業省 イノベーション・環境局 GXグループ資源循環経済課 課長補佐 今井 美希 氏</p>
14:00—14:50	<p>講演② 『再資源化事業等高度化法について』</p> <p>令和7年11月21日に全面施行された「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律（再資源化事業等高度化法）」について、法の目的と基本方針、廃棄物処分業者の判断の基準と報告・公表制度について紹介し、再資源化事業等高度化法の3つの類型の認定制度について、それぞれの類型毎に、認定を受けるための要件や認定により受けることができる特例等を紹介する。</p> <p>講 演 者</p> <p>環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 水島 大輝 氏</p>
15:00—15:40	<p>講演③ 『再生材を活用した軟包装の国内展開について』</p> <p>サーキュラーエコノミーへの移行が求められる中、包装材料に関しても環境配慮された製品設計が求められている。特にEUにおけるPPWR（包装及び包装廃棄物規則）の採択や国内における資源有効利用促進法の改正法案により、再生資源利用が義務化され、バージン材料の使用量削減が求められるようになってきた。これに対し、TOPPANは提供する包装材料に対して様々な取り組みを進めている。例えば、前述の要求に応えられるソリューションの提供に向け、リサイクル可能な包装材料（モノマテリアル包材）の開発や、その包装材料をリサイクルするための技術の開発などを取り組みの中心に据えている。</p> <p>本講演では、TOPPANの軟包装材料に対する取り組みを中心に紹介する。</p> <p>講 演 者</p> <p>TOPPAN株式会社 生活・産業事業本部 SX推進センター SXパッケージ開発本部 滝田 亮一 氏</p>

企画委員

- 本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。
- 後藤 敏彦 氏 特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
 - 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長
 - 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

時 間	テ ー マ
15:50—16:20	<p>講演④ 『海外のリサイクル視察報告～欧州(スウェーデン)および中国の先端メカニカルリサイクル施設と再生材使用状況』</p> <p>プラスチック容器包装リサイクルに関して、2024年に欧州のリサイクル施設4か所と2025年に中国の施設9か所を視察した。今回は、スウェーデンSiteZero社のソーティングセンターと中国梧州国龙再生资源发展社の食品グレード対応のメカニカルリサイクル設備を中心に特筆すべき事項について説明する。</p> <p>視察の背景として、日本では廃プラスチックの有効利用率の低さが大きな課題の1つであり焼却（熱回収）される量が多い状況である。資源有効利用促進法改正により再生材料の使用義務化を制度化し、そのための回収数量増や再生材料の品質向上により利用市場の拡大を図り、有効利用率向上を目指している。その解決策の1つにソーティング技術が考えられることと、中国は日本の再生プラスチックを輸入活用するとともに欧州との貿易維持向上のため再生材料の数量確保や品質向上技術が進んでいるとの情報をもとに、欧州及び中国のリサイクル施設を視察することとした。</p> <p>講 演 者</p> <p>公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 業務執行理事 プラスチック容器事業部長 前川 恵士 氏</p>
16:30—17:30	<p>パネルディスカッション 『日本の法改正を軟包装でどう生かしていくか』</p> <p>日本でも包装容器の資源循環に向け、法的拘束力のある2つの制度が導入される。一つは2021年に施行された「資源有効利用促進法」の改正で、GX推進法と一体運用され、包装に再生材の利用が義務化され、設計段階での環境配慮が求められる。</p> <p>またこの法律を補完するものとして、資源循環の質と量を向上し、GHG排出量を削減する「再資源化事業等高度化法」が新たに加わる。先進的な再資源化事業を促進する国の「認定制度」が創設され、民間における再生材の利活用推進や、企業間の連携強化が期待されている。</p> <p>この度のパネルディスカッションでは、両法が求めるいくつかのポイントを、パネリストと会場に来られた皆さんと一緒に議論を深めたい。</p> <p>《テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 再生材を軟包装に実装するための課題は何か？ (2) 軟包装に環境配慮設計を取り込むために必要なこと？ (3) 熱回収以外に廃プラスチックの最終市場を拡大する有効な方策は？ (4) 循環型軟包装に適している素材はプラスチックか紙か？ <p>※金属とガラスはリサイクルを繰り返しても物性低下がなく今回は除外する</p> <p>【パネリスト】</p> <p>《講演者》 前川 恵士 氏 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 業務執行理事 プラスチック容器事業部長 滝田 亮一 氏 TOPPAN株式会社 生活・産業事業本部 SX推進センター SXパッケージ開発本部</p> <p>《企画委員》 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長 後藤 敏彦 氏 NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長</p>